向陽新聞
高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　加賀野井秀一
発行人　山岡　伸一
印刷　高知印刷

創立50周年竣工まず不可能か

難航する土地交渉

青写真製作へもしわよせが

昭和三十九年、校長先生が校舎新築を言明して以来三年の月日がたった。その間、校舎新築問題研究機関として〝校舎建築研究基礎委員会〟も設置され、校長先生も八方手を尽くされてきた。しかし一番基礎となる土地決定もなされず、また青写真も未発表のまま現在に至っている。この様な状況の中で一部には「現在の様な状態では校舎新築は無理ではないだろうか」との声も聞かれる。新聞部では、現在までの経過、現状分析により、今後の見通しを探ってみることにした。

突然の印刷所労働争議で計画の六面発行ができませんでした。残りの四面分は内容を充実させて、来学期初めに発行いたします

（編集人）

校舎老朽化に伴う新校舎建設の必要性は相当以前から各方面で叫ばれていた。校長先生も就任当時からこの問題について考えてこられ「校舎新築をしたい」との意向を示されていた。しかし、正式決定のないまま昭和三十九年に至った。同年十月、校舎新築に関する研究機関として、学校の理事、振興会、同窓会、職員各方面三～四名ずつの選出委員による「校舎建築研究基礎委員会」が設置された。これは①学校改築は必要か、②もし必要とすれば土地は移転しなければならないか、の二点を中心とした基礎問題研究を目的としていた。そして、この調査結果も討議された後、正式に〝新校舎建設〟が発表された。その後土地・資金の問題について理事会との相談も行われた。しかし、理事会直属の計画委員会などというものはなく、具体的計画案は校長先生に任されている。

ところで土地、資金等の諸問題はどのようになっているのだろうか。

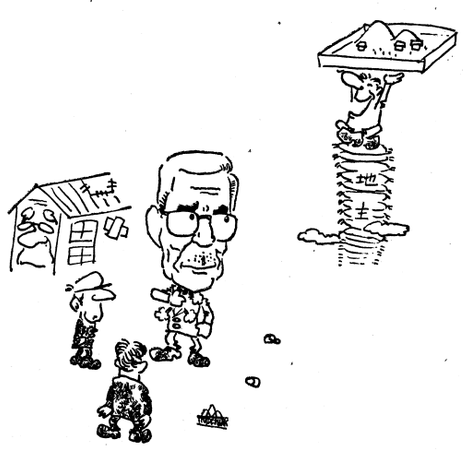
土地―現在地か？移転か？この問題は最も重要なだけに再三審議され、その結果移転することに決定した。その理由としては、次の点があげられている。

①、敷地が狭い―高校設置基準では建物に四千坪必要となっている。ことに本校の場合、高校と中学校が一諸なのでどうしても五千坪は必要である。ところが本校の敷地は現在二千坪しかない。グラウンドの方も高校で九千七百坪、中学校で三千六百坪必要だが、本校は旧グラウンドが二千四百坪、新グラウンドをあわせても基準に達していない。

②、地盤が軟弱―昭和三十九年十月ボーリング調査が行われた。その結果現在の所在地の地質は、鉄筋コンクリートの校舎建築には理想の地ではないことが判明。また無理をして現在地に建て直すとしても、地盤を安定させるのに相当の工夫が必要であり、基盤経費がかかりすぎる。

③、環境の問題―浦戸湾付近の工場増設により周囲の空気が汚染され健康上よくない。梅ケ辻付近の交通量増加による交通事故発生の危険性と騒音の害。不良の出没など学校周囲の環境の不健全。

そして土地探しが始まった。その際、代表委員三名よりなる、土地問題調査委員会が設置され、土地買収に関与している。ところが適当な土地はなかなか見当らず、土地問題は難航した。現在も建設地買収の交渉中であるが、この交渉の見通しは全くわからず、またいつごろまでに土地決定がなされるか、おおよその期限も発表されていない。この土地決定は校舎建築の最も大きな基礎問題であるだけに、他の問題（青写真製作）への影響が大きく、土地決定の遅れは大きなしわよせをおこしている。


「それでも新校舎は建つ！」

むつかしい資金調達

資金―校長先生は「費用は建物に二億、土地に四億を予定しており総額六億を上回るだろう」と語っている。それでは六億の資金のメドはついているのだろうか。この場合特に大切なことは本校が私立校であるために、国や県からの補助が皆無に近い、ということである。現在長期十年に渡る資金調達計画がたてられ一応のメドはついている。ところが、現在学校の有している金額は今年四月から生徒一人当り七百円ずつ集めている建築協力金があるだけで、億にはほど遠い。資金の不足分は借りておき、校舎建築後コツコツ返していくという計画がたてられているがどこから借りるのか、そのメドはまだついていないとのことだ。

土地決定まで

青写真には手をつけられない

青写真―当初計画では昭和四十年内発表予定であったが、二年遅れた今でも発表されていない。校長先生は「青写真は土地が決定しないと製作することはできない。できるだけ早く土地を決定し、青写真の発表も急ぎたい」と言っているが、土地問題の解決していない現在、まだ当分発表は無理のようだ。また土地が決定しても、中高分離問題、各教科の先生方の要求問題があり、土地決定後、青写真発表までは相当時間がかかるだろう。なお、基本方針として

○校舎設備は今までにないような

新鮮なものをとり入れる。

○中学、高校は原則として分離する。

の二点が示されている。

このように大きな問題をかかえている校舎新築だが、竣工はいつになるのだろうか。計画では創立五十周年（昭和四十五年）を竣工期日とし、開校五十周年と校舎新築記念行事をあわせて行うとなっているが、以上の事実を考え合わせてみると現在の建築計画どおり行われることは、まず不可能とみねばなるまい。

校長先生　元気に帰国される
礼儀正しい西欧の学生

さる九月十九日、八週間の海外旅行から校長先生が帰国された。このたびの長期旅行の主目的はカナダのバンクーバーで催された十日間の世界教育者会議に日本代表者二十四名の一員として出席されたことと、その後に約六週間を費して各国の教育事情を視察されたことである。

校長先生が実際に立ち寄られた学校は、ハワイのカメハメハ学園イギリスのイートン校・西ドイツハンブルクの市立高校・北欧三国とソビエトの高校であるが、夏休みの中なので北欧三国・西ドイツ以外は授業参観ができなかったとのことである。

校長先生談

生徒会議の目的

会議の目的は、教員の地位向上教育界の国際理解と親善で、今回のテーマは「教育団体の専門職としての責任」だが、国際理解と親善がその大なりを占めていた。またカナダ政府は建国百年を記念したカナダのPRも兼ねていたのでアイスショーや親善パーティへの招待があった。互いの国の状況を知ることも目的の一つで、話し合ってみると各国でかなりマチマチな教育とそれを取りまく状況があることがわかった。会議では発言の多いAA新興諸国に熱意が感じられた。

各国の学校を視察した。まずハワイではカメハメハ学園という年間収益十四億円の旧王室財産で運営されている幼稚園から高校までを含めて二万と一千百四十七枚ところがこれらのガラス、大部分は透明なはずだが、諸君のまわりを見回してもらいたい。本当に透明だろうか。比較的よく磨かれている下の方はいいとしても、背の届かない所はどうだろうか。上へいくほどチミツな模様がはいり、最上段などはスリガラスと見間違うほどである。校舎が美しいからといってガラスまで〝模様入り〟とは……。模様の原因はおもに土とホコリ。それにガラスには長い間に巨く澱を失透とかいう性質があるらしい。土やホコリは拭けばいいとして、失透ばかりはどうしようもない。

本校には一体何枚のガラスがあるか御存知かな？食堂からトイレまで含めて二万と一千百四十七枚

本校（土佐中学校）の数学の講師である吉本実（かなめ）先生はこのほど、私学振興につくされた功績により〝勲五等瑞宝章〟を授けられた。

先生は「はなはだ恐縮」と、極めて控え目な態度だが、さすがに喜びの気持ちはかくせない様子で肩をちぢめながら〝愛らしい？〟笑みを浮べておられた。

平素〝数学による人間作り〟を目指してこられたという吉本先生自ら「私の授業は、礼に始まり礼に終わる」と言われるとおり、特に礼儀作法にきびしいことでは有名だ。そのせいか、日頃は生徒の間では〝カマス〟と呼ばれて、大いに恐れられているが、一方かえって親しみを持たれているようである。それでも御当人は「たしかに私は嫌われ者だが、近頃の生徒は私の言うことをわりあい良く聞いてくれて、気もち良く授業ができている」と、さらりとした表情

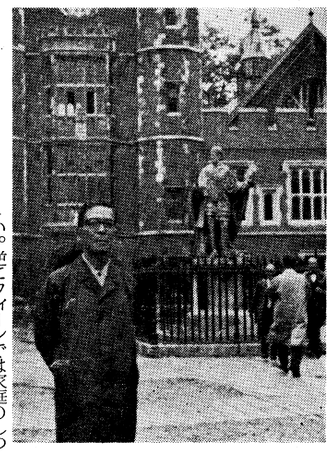
大正三年に〝教育の森〟に踏みこんでから、はや五十三年。土佐中学に移られてからでも四十五年の歳月がたっている。この間教※うニックネームも、以前勤めておられた女学校時代からのものだと言うから、まさに名実ともに〝本校最古の先生〟だ。

今後ますます御健康で、教育振興につくされることをお祈りしたい。

吉本先生の話

私がこうしてこの学校に長く勤めさしていただいておるのも、みな、ほかの先生方の御配慮によるものだ。今度の叙勲も、私は何もりっぱなことはいたしておらないのだが、たまたま長く勤めておったから授けられた、というだけのことで、はなはだ恐縮だ。

吉本先生叙勲
『半世紀の功』なる


イギリス「イートン校」にて

喜びの吉本先生

※えた生徒がざっと六千人、五十三年間病気などによる欠勤も皆無。もちろん健康には十分注意されているという。〝カマス〟といに礼儀作法にきびしいことでは有名だ。そのせいか、日頃は生徒の間では〝カマス〟と呼ばれて、大いに恐れられているが、一方かえって親しみを持たれているようである。それでも御当人は「たしかに私は嫌われ者だが、近頃の生徒は私の言うことをわりあい良く聞いてくれて、気もち良く授業ができている」と、さらりとした表情

大正三年に〝教育の森〟に踏みこんでから、はや五十三年。土佐中学に移られてからでも四十五年の歳月がたっている。この間教※

停滞する生徒委員会

土佐校と千思万議

(4)

11月22日・11月27日・11月24日12月7日の四回、生徒委員会が流会となった。「委員会不活発」が言われているやさき、こうした事態が起ったことは、それを証明したような形になっている。委員会議決権廃止動議が次々と提出されたが三動議とも否決され、その後の動きは皆無。議長団は委員改選を要求している。

これについて、周囲の者はどのような考えを持っているのだろう

高二生徒　別にどうということはない。われながらなさけない話だが、土佐校生全体のあらゆることに関しての無気力さは、もうどうしようもないところにきている

三枝先生　なさけない話だね。委員会を流すということは、生徒会活動の権利を君達自身が放棄することになる。自分で自分の首を締めるようなものだ。別に学校に反抗しろというのではないが、良い意味でもっと学校側と四ツに組めるようになってもらいたい。

生徒会長　議決機関が動かなければ我々執行機関はなにもできない。予算・文化週間・リーグ戦も近づいていることだし、はやく活発になってもらいたい。

主張
危機に立つ生徒自治
自主性をとり戻そう！

十一月三十日の生徒委員会でとつぜん、下記の三動議が提出された。高三委員の中から委員会廃止動議、同じく高三から委員会解散動議、会長から「委員の議決権をとりあげる」という動議、この三動議である。

議会廃止ということは、いったい何を意味するのだろうか。結局は生徒自治の放棄ということになり、執行部独裁、あるいは、生徒活動は学校側の考えで常時簡単に左右されるということにもなりかねない。委員会解散動議ということは、現在の委員がそろいもそろって自治活動の失格者ということになる。会長の動議によれば、全委員は執行部または学校側のあやつり人形ということになり、それが、ひいては全生徒がそうなることを示している。つまり、この三動議は非常に破壊的な危険なものなのである。

それでは、なぜあえてこの三動議を出す必要があったのだろう。これらが提出されるに至るまでには、例の「文化祭二年一回に決定」からの一連のいきさつがその理由としてからんでくる。まず、文化祭二年に一回決定の理由の一つに「一般生徒の盛りあがりがない」ということがあげられていた。そして、二年一回決定の結果、執行部は一般生徒の文化行事に対する関心高揚のために文化活動振興委員会設置を考えたが、それは学校側のあやつり人形ということになり、それが、ひいては全生徒がそうなることを示している。つまり、この三動議は非常に破壊的な危険なものなのである。

それでは、なぜあえてこの三動議を出す必要があったのだろう。これらが提出されるに至るまでには、例の「文化祭二年一回に決定」からの一連のいきさつがその理由としてからんでくる。まず、文化祭二年に一回決定の理由の一つに「一般生徒の盛りあがりがない」ということがあげられていた。そして、二年一回決定の結果、執行部は一般生徒の文化行事に対する無関心の程度をはっきりと表わしているのである。さらに、この間には委員会が連続三回流会となった事もみられる。こうして、その結果として前記の三動議に至ることになった

解散動議は、委員の改選によって人材が集められるという希望的観測があるが、他の二者は絶望的なものだ。しいて利点を求めるならば、一般生徒の無関心とは以前から根本問題となっている。つまり、現在は生徒無関心のため一方にはいともコッケイな「ドンブリ委員」「食器返還委員」が設けられ、他方ではまさに生徒自治がひん死の状態になっている。

生徒自治を盛りたてていくか放棄するか、ひいては学校生活の向上をめざすか否かは、今諸君ら一人一人の肩にかかっているのである。

自主性をとり戻そう！

ひとこと

○…先日、私立高校校長会で、私立五校（土佐女・高知・学芸・清和・土佐）熟行部懇談会禁止が決まった。この懇談会は各執行部員の定期的な会合で、各校の諸問題・悩みなどについてそれぞれの立場からアドバイスしあい、互いの向上を図るのがその目的であった。

○…本校熟行部はこの懇談会を意義深くみており、今まで懇談会発展のために、各校に積々の働きかけをしてきた。他校の熟行部もこれに参加を希望した。

○…ところが、他校の校長からこのような申し出があった。

「土佐高が懇談会を開こうとするのは勝手だが、本校にまで働きかけてきて、校風を乱されるのは困る。いつそ懇談会は禁止したい」こうして今度の禁止令がおりることになった。

○…働きかけを拒絶することは、はたして正しいのだろうか。この極端なまでの逃げ腰は、少々不自然ではないだろうか。

○…禁止理由は次の四点だとのこと。

①テーマがなく茶話会におわる

②生徒全体に成果が還元されない

③全学連的行動の恐れがある

④校風が乱れる。

①②はまず問題としなくてもいいだろう。③は確かに「恐れ」はあるかもしれない。しかし「かもしれない」からといってすぐに禁止してしまうのが教育だろうか。「かもしれない」のためにこうした互いの向上を目的とした生徒の集いを一言で禁止しているのだ。④も問題である。校風とは一体何だろうか。校風とは他校生との話し合いによって簡単にくずれてしまうような貧弱なものなのか。校風とは自校内のみにこりかたまってしまうものなのか。

○…私達は学校でコスモポリタンやデモクラシーの精神をおそわり、社会科では地球の裏側のことさえ習っている。ところが身辺では「懇談会の禁止令（一九六七）」や「自校粋主義」が横行している。

○…私達にも危険性はあるにしても「禁止」という教育方法でおさえつけてしまうとは。さてもさても校長会は生徒を恐れているものかなあ。

（S・K）

校長会
「生徒はこわい」

合同発表会開かる

P.F.C 生物部

去る十二月二十四、二十五日の両日、美術室でP・F・Cと生物部による合同発表会が催され、終始多くの観覧者でにぎわった。

今までにもめったになかった試みだけに、何とか成功させようと発表会にそなえて、数日前からチラシや放送などでPR、観覧者にはお菓子のサービスをするなど、大変な力の入れよう。

そのかいあって両日とも絶えず大入りの盛況で、P・F・C部長小林君（二H）、生物部副部長山崎君（二H）ら一同「まあまあだ」と成功を喜んでいた。

中でもP・F・Cでは、沖縄の中学生たちとの交換テープを公開するなど、意欲的な試みがなされた。また希望者に無料で海外交通のあっせんをしたが、これもなかなかの好評で、合計六十二人の申込みがあったという。

ところで、この発表会を催すにあたって、はじめ期待していた学校からの援助はまったく出ず、特別費から、必要経費の約三分の一にあたる千二百十四円が出された。特活部は先の〝文化大騒動〟の時の再三の部長会で「このような形式の発表会を開く時には、費用の上での援助などもできるだけ出してもらえるよう努力する」と言明しており、小林君は今回の措置には納得がいかないと、不満をぼしている。

なお、この日の出し物はもともとは文化祭のためのもので、夏休みから準備を進めていたのが、今年度は文化祭は行なわれないことになったため、急きょ予定を変更、この発表に踏み切ったのことだという。

松尾先生（特活部）の話

こういう形式の発表は非常に良いことだと思う。展示方法や説明にもう一工夫ほしかったが、このような文化部の自主的発表は今後大いになされて良いことだと思う。資金面での援助についてはP・F・Cから要請があったが、あれに使う費用は画びょう代とかテープ代とかで、大変額ではなかったので、特別費の要求をするよう勧めた。

「援助が出るよう努力する」とは言ったが、実際には校長が出すと言わなければそれまでで、費用の事に関しては、われわれは具体的にどうすることもできないのである。

南国土佐に寒い北風が吹きぬけ、多難であった？一九六七年も終りを告げんとしている。

この一年間世の中では様々な事件があったが、目を我が土佐校に向けてみよう。今年一年本校に起ったニュースを顧み、来年の飛躍としようではないか。

オンカン先生逝去

正月五日、偉大なる土佐校の名物教師オンカンこと中山馬先生が永眠された。そのユニークでユーモラスな授業ぶりが生徒の人気を一身に集めていたのは我々の記憶に新しい。今一度先生の御冥福を祈ろう。

校長海外視察

校長は八月にカナダで開かれた世界教育者会議に出席され、欧米の学校を視察された。その模様は全校生徒を講堂に集め詳しくお話して下さった。欧米帰りの校長は、土佐校飛躍の為のアメリカ流英国調、おフランス式などの腹案をもたれ御帰国されたのであろう。我が校の来年が光り輝くことを期待する。

野球部夏の甲子園へ出場

野球部が十四年ぶりに夏の甲子園に出場した。マナーも毎度のことながらほめられ、成績もますまずといったところ。だが甲子園へ出場する度に、一口千円の寄付金が生徒に課せられる。風が吹いたら桶屋が儲けるごとく、野球部が甲子園へ出場すると、さて、どこが儲けているのか、考えてみるのもおもしろいのでは……？

文化祭が二年に一回となる

文化祭が二年に一度と決定した。世間では様々な事件の後に〝話し合い〟という言葉が流行したが、土佐校において、この問題に関するなら〝話し合い〟の場は与えられたが〝話し合い〟を行なう人達の態度が根本的に相反していたので〝話し合い〟とはいえない事態が生じた。この問題が土佐校において〝先生と生徒間の距離〟という現代病の発端にならねばよいのだが……。

修学旅行の事後処理

従来黙認していた態度をガラリと改められ、学生にあるまじき行動であると、数十名の生徒に三日間の休暇を与えた学校側の御英断は大いに後世に良い傾向を与えるであろう。しかし、現在のような物見遊山的修学旅行に今一度再検討をし、授業の一環の修学旅行にしてもらいたいものである。

カマス先生叙勲

吉本実先生は教壇に立つこと五十三年、その業績を称えられて〝勲五等瑞宝章〟を与えられた。

二、三年しか大臣をやってない人が大きな勲章をもらい、先生のように五十三年も教壇に立たれた方が小さな勲章しかもらえないとは、世の中間違っとるヨノしかし勲章の価値は、大きい小さいではないことは確かだろう。

（H・K）

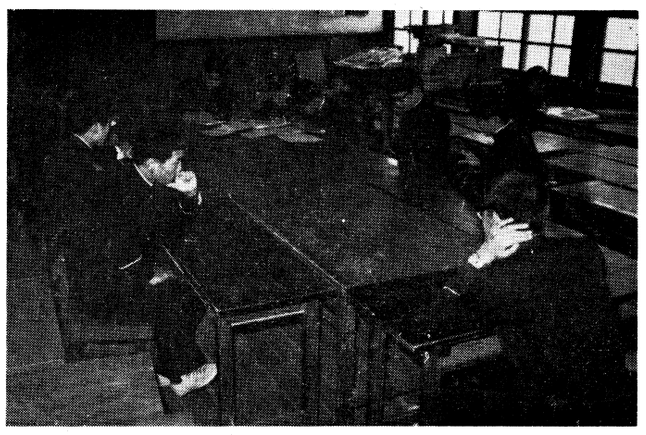
紳士服装専門店
お誂紳士服
高級既制服
男子専科…ヤングマンコーナー
＜土佐高制服オーバー指定店＞
廣松屋
大丸北口前　TEL ②2338 ②1527

〔女子〕別誂　制服
学生服　既製　別誂　〔男子〕
○　スクールセーター
○　レインコート
○　女子用　ソックス　ストッキング
入交学服
中ノ橋電停前　TEL ② 1776 ② 2744

文化祭その後

善後策こうられず
一般生徒の無関心が原因か

「文化祭が二年に一回になったき、元気もないなった」という、しんみりとした部長会。「文化週間じゃゆうても、うまいこといくろうか……」
――文化活動の振興が望まれている。――



≪十月十一日、職員会議で「文化祭二年に一回」の再々確認が行われ、今年度からこれを適用することになった。これで、紛糾を続けてきた文化祭問題も一段落つくことになり、それとともに、生徒の間では善後策の必要性が出てくることになった。執行部は「文化活動振興委員会」を考案したが生徒会で認められず。その後、高三委員から提出された文化活動振興のための小委員会案も否決されまた、高二から出された小委員会案も未決定のまま現在に至っている。今学期中には、まだかたづかないであろう。≫

部長会その他での話し合いの結果、特活部は一年に一回という考えになっていた。そこで、特活部は十月四日の職員会議の際、それまでに決定されていた二年一回案を一年一回に変更するよう提案した。特活部の一年一回案の目的は

①生徒側からの盛り上がりを待つだけでなく、学校側からも積極的に生徒を指導し、多くのチャンスを与えてやるため。

②文化祭という一目的をなくして文化部の一層の衰退をまねかないように。

の二つが主だった。しかし、職員の多くが

①職員会議の決定をそう何度もくつがえすことはできない。

②まだ一度も二年一回を試みて、それについての努力もしていないので、一度二年一回を実行してみよう。

という意見であり、特活部の提案は却下された。

最終決定が発表されても生徒間では「やっぱりだめか」というささやきが起こっただけで、公然と抗議するものはほんのわずかであった（高三有志・熟行部・新聞部）。廊下にも抗議文が貼られたが、特に効果は現われなかった。各部長も「気がぬけてしまった」とのこと。特活部によると、もう今年度中には二年一回を変更することは不可能らしい。執行部は「来年度になったら、もう一度変更を試みたい」と話していた。

文化祭開催の回数が少なくなっても文化部が衰えないようにという考え方から発展して、全校のあらゆる文化活動（運動関係も含む）を振興させようと、執行部は「文化活動振興委員会」というものを考案した。これは各ホームから二名づつ参加させる総員五、六十名の機構であり、H・R・委員会も包含しようというもの。生徒委員会に設置承認をはかり、三つの修正案も提出されたが、結局四案とも不承認におわった。否決理由は

①機構が大き過ぎる

②具体的な計画のなされた機構でない

③提案理由が薄弱である

文化活動振興委員会否決の直後高三・高二から「文化活動振興のために、生徒委員会の下に小委員会を設置しよう」という動議が出されたが、反対理由もないまま否決された。先の文化活動振興委員会設置についての審議にしても、この小委員会の場合にしても活発な討議は行われず、採決の際にも半数以上の棄権者があり、簡単に否決となっている。こうした生徒委員会の不活発によって、ひいては、各クラスでの討議の不活発によって、文化祭二年一回決定の善後策（生徒にとって）考案も停滞を続けている。

現在、執行部は文化活動振興のために、文化週間やサッカーリーグを検討し、実施しようとしている。会長は「今は文化祭について考える初歩の初歩の段階だ。生徒の多くは文化祭に対しても、文化活動に対してもまだ無関心だ。ぼく達の代で文化活動の振興をはかり、来年度の文化祭開催のための下地としたい」と言っている。執行部・特活部ともに、来年度文化祭の計画は五・六月頃からはじめようという考えである。来年度前期の一大仕務となりそうだ。

こんな文化祭も
成功させたい文化週間

今、執行部では文化活動振興のために文化週間・文集発行を計画している。会長の話では文集発行の件は九分どおり特活部の方から許可がおり、援助金も期待できそうであるとのこと。ところが、文化週間にはまだ多くの問題点がある。

文化週間は二月十日～十七日を予定している。文化週間とは、執行部の考案した一週間かけて行なう文化部の合同発表会のことである。十二月七日に部長会が開かれ各部の参加意志の調査と、質問と意見の交換を行なった。当日は連絡が徹底しておらず「文化週間など初耳だ」というクラブが多く各部の参加、不参加は採ることができなかった。文化週間はまだ生徒委員会にかけておらず、開催は確定していない。

金銭的な面にも問題がある。学校から援助金が出るかどうかということである。執行部は各部から請求額をうけとり、学校に要求するつもりだが、まだ、いくらぐらいなら妥当であろうという額も示しておらず、P・F・C・生物合同発表の時のように学校からの援助金0ということにもなりかねない状態である。

開催方法もいろいろ考えられているようだが、具体案としては①統一テーマで行なう。②文集を発行する。があげられているのみである。準備期間も少いことだし、相当な計画をつくらねば成功させることはむづかしそうだ。最悪の事態として学校から援助金が出ない場合にどうするかも考えておかねばならない（現在、執行部ではこの点を考えていない）。

松尾先生談　特活部としては、このような計画は結構だと思う。熟行部から提出された企画には賛成している。ただ、学校からの援助金がない場合のことも考えておいてもらいたい。今年は、文化祭は行われないということから、おそらくはこのような企画には援助はないと考えてもらわねばならない。それも、一般生徒の間に意欲がみられれば援助の可能性も大きいが、今回のは熟行部の一人舞台のような感じもする。

生徒会長談　なんとしても文化週間は実現させるつもりだ。もしこれが実現できなくなっても、文化活動振興のためには他の方法も考えている。弁論大会の開催や各種の懇談会の開催だ。これらについても冬休み中に具体案を考えたい。熟行部を引退しても有志達十人ほどで「文化活動振興同好会」とでもいうようなものをつくり、活動する気でいる。心配は「我々が孤立しはしないか」ということだ。皆の協力を期待している。（終）

このように、各校には各様の文化祭があり、それぞれが現状の一長一短に悩んでいる。

全体的に言えることは、どこも、学校側は規模を縮少して純粋なクラブ発表会にすることを理想としており、生徒側は反対の学園祭的なものをめざして規模を拡大したいと希望している。それはちょうど、本校の「（部の）発表の場とする」という校長方針と、熟行部のいう「一般生徒の参加・規模拡大」との関係に似ている。

二年一回の開催方法は高知高校で実験済みだが成功はおさめていない。本校の前途も危ぶまれる。

西高の先生が言われるように確かにこの際、文化祭の意義の再検討が必要になっているようだ。現在、商業の学園祭の充実感にしろ、土佐女子のバザーの楽しさにしろ、すべてに「対人関係」ということが根底にある。これらのことも考えてみる必要がありそうだ。

小津高の意欲は見習うべきだろう。本校では、いったん二年一回が決まると、もう「仕方がない」ですましてしまう傾向があるようだ。現在は熟行部ひとり宙にういたような感じだが、こういう問題は全校生の協力がなければどうなるものでもない。

文化祭にしたい
追手前

追手前校では、毎年秋季、土・日の二日間「クラブ発表会」を行なっている。規模は本校の文化祭より相当小さく、展示場は体育館を区切って使用するので、演劇等は講堂で行なわれている。食堂は開放されているが、本校の模擬店に相等するものはなく娯楽的な催しは新聞部チャリティーショーを除いてはまずない。この学校では、学校側のめざす発表会と生徒のめざす発表会とにくいちがいがある。

生徒部　クラブ発表会は今年で五回目だ。その前は「学園祭」を行なっており、一週間から十日の期間で、文化祭と体育祭を合わせたものだった。しかし、これほどの日数をとるということは、授業の方にも影響があるし、全体にグラケてしまう。だから、規模を小さくしてクラブの発表だけに限ることにした。展示場が少いことは、定時制との関係もあって、数日前から場所づくりができないという事情も原因になっている。こういうものの価値は、規模の大小にはさほど関係ないように思われる。今のところ「文化祭」「学園祭」にするなどということは考えていない。クラブ員以外にも土曜日の午後に見学させることになっている。

『大』学園祭
商業

毎年秋季に十日間の「学園祭」が開かれる。学校からの予算は0であるが、我々はこの「協調」ということを強調したい。何かこう全校生徒が一致し、協調してよりよい学園祭づくりをめざすというのが大きな喜びだ。あまりに自由なために時にはハメをはずしたりもするが、互いに反省し合って向上していく。本校生の多くも学園祭の催しそのものよりも、その裏の対人関係や協力性に意義を認めているようだ。自校のことを言うのは変だが、学園祭には誇りをもっている。

復活させたい
高知

高知高校では文化祭について公的な発表をしてもらえなかったので、新聞部の参考意見を引用した。

新聞部員談　本校では昨年から文化祭は廃止になった。結局、原因は「活発な運営をしていない」「文化祭の効果が少い」「生徒が不真面目」というところらしい。二年一回だったが、内容はやはりそう変わるものではない。二年一回にしてマンネリ打破しようという考えは無理ではないか。我々もできれば復活させて「学園祭」というものをめざしたいと思う。

文化祭―バザー
佐子　土女

土佐女子校のバザーは昭和二十二年からはじめられ、現在まで文化祭の役割も果たしてきた。

会長・文化部担当者談　そう、文化祭、私達もたしかにおもいっきり発表に重点のおける「文化祭」というものをやってみたいと思うでも、本校のバザーは本校生だけのものではなくなり「高知の人々みんなのバザー」となってしまっている。だから私達だけで文化祭や学園祭にしてしまうことはできない。文化祭をやりたいという生徒も多いけれど、やはりバザーにしてしまった事と、疲労と、そして、「高三だぞ」という学年末の雰囲気であった。しかし、この事は、私が徹底的に責められなければならない重大な過失である。この時点ですぐに、徹底的追求をしていれば、学校側の曖昧さは暴露し、事態を回避でき得たと思う。熟行部の怠慢

②二年に一回案の根拠のない事でなくて何であっただろう。それにつけても、何という機構の巧妙な手口であろうか――。

II　今年度文化祭の中止

①今年度になって職員会議は、全く無謀な決議をした。我々は裏切られたのである。「テストケース」この言葉に騙されたのである。昨年度の文化祭の我々の熟行部の限界であった。そこで一括購入という予算を最大限に活用する方法を考えて、ついに文化祭を最大の規模で成功させる事ができた。

④断じて言うが、「文化祭は校内における文化部発表会に限るという校長方針が変更されぬ限り、絶対に昨年度の規模以上ではでき得ない。昨年度の文化祭で、本校の収容能力の限界に到達していると断言できる。

この上、何をマンネリと言うことができようか？

⑤文化祭は成功であった。事後アンケート調査の結果、九十%の者が成功であったと評価している。

⑥文化祭における模擬店経営の状態は非常に良く、収益は十四万円に昇った。ところが、この金は経営主である熟行部の手には渡らず、いつの間にか、経営主は学校と変わっており、全収益は約束通り、学校金庫へおさまってしまったものである。その上、他の場合と違って、アルバイト料などは支払われず、結果的には、「奴隷的労働」をさせられた事になってしまったのである。その事が追求されなかったのは、熟行部の任期が切れてしまった事と、疲労と、そして、「高三だぞ」という学年末の雰囲気であった。しかし、この事は、私が徹底的に責められなければならない重大な過失である。この時点ですぐに、徹底的追求をしていれば、学校側の曖昧さは暴露し、事態を回避でき得たと思う。熟行部の怠慢

②二年に一回案の根拠のない事でなくて何であっただろう。それにつけても、何という機構の巧妙な手口であろうか――。

II　今年度文化祭の中止

①今年度になって職員会議は、全く無謀な決議をした。我々は裏切られたのである。「テストケース」この言葉に騙されたのである。昨年度の文化祭の我々の熟行部の限界であった。そこで一括購入という予算を最大限に活用する方法を考えて、ついに文化祭を最大の規模で成功させる事ができた。

④断じて言うが、「文化祭は校内における文化部発表会に限るという校長方針が変更されぬ限り、絶対に昨年度の規模以上ではでき得ない。昨年度の文化祭で、本校の収容能力の限界に到達していると断言できる。

この上、何をマンネリと言うことができようか？

⑤文化祭は成功であった。事後アンケート調査の結果、九十%の者が成功であったと評価している。

⑥文化祭における模擬店経営の状態は非常に良く、収益は十四万円に昇った。ところが、この金は経営主である熟行部の手には渡らず、いつの間にか、経営主は学校と変わっており、全収益は約束通り、学校金庫へおさまってしまったものである。その上、他の場合と違って、アルバイト料などは支払われず、結果的には、「奴隷的労働」をさせられた事になってしまったのである。その事が追求されなかったのは、熟行部の任期が切れてしまった事と、疲労と、そして、「高三だぞ」という学年末の雰囲気であった。しかし、この事は、私が徹底的に責められなければならない重大な過失である。この時点ですぐに、徹底的追求をしていれば、学校側の曖昧さは暴露し、事態を回避でき得たと思う。熟行部の怠慢

②二年に一回案の根拠のない事

私は、昨年度の文化祭を主催した立場にある者なのですが、昨年度の文化祭、今年度の「文化祭抜打ち取止め」高三・特活部懇談会、そして文化祭の将来の問題点など、私の意見を「メモ」として提出したいと思います。このメモによって確実な、「事態の証拠」としたい事と、一つには重要な「自己批判」でもあるのです。

I　昨年度の文化祭

①特活部より「文化祭二年に一回開催案」が初めて出され、生徒総会等の結果「テストケース」として文化祭は開催された。この「テストケース」という言葉に騙されたのであった。

②文化祭に対する各部の熱情は非常に高く、その当初予算は二十五万円程度であったが「文化祭の進展」とかを叫ぶ学校側は大いなる矛盾をもって、「場所と時間とだけを与えるのが原則だ」と言って、予算を減じ、それでも、去年額よりも多いとして、新趣向の模擬店よりの利益金を還元することを義務づけた。

③学校側のこの様な態度には、怒りを感じたが、「校長方針」というものを考える時に、正当な生徒の意志をも抑圧する怪物の存在に気付くのである。そして生徒自治ということは、それらの生徒の正当な意志を代弁するだけでなく、専横に対して、ただ手をこまねいて傍観していてはいけないのだ）

III高三・特活部懇談会

意欲をみせる活動
小津

小津校では今年から文化祭が復活された。昔は大規模な文化祭をやっていたようだがしばらく廃止されていた。廃止理由は新聞部にも執行部にもわからないとのことだが、昔にこだわりずに前進しようとしている彼らにはどうでもいいことらしい。

新聞部・執行部員談　今回は文化祭を復活するのに努力したつもりだ。これからは色々な趣向も考えてゆきたい。昔の文化祭が廃止された理由は学校側にもわからないようだ。だから復活するのにも大して支障はなく、生徒はやりたいというし、学校側もやらしてみようという気らしい。今年のはまず成功だったとみている。これからの文化祭の目標は①文化クラブの発展を図る②文化学習③一年間の総決算④学生運動の四点だ。クラブ中心だが、だんだんに一般生徒の参加をうながし、学園祭的なものにし、大学の学園祭のようなものをめざしたい。

文化祭の意義を再検討
西

西高校の文化祭は本校と同じくらいの規模であり、開催の形式も似ているようだ。学校の場所が市の中央から遠いので見学者もおのずと限られ、大体、学校関係者、生徒父兄を対象とすることになる。

生徒部先生談　本校の文化祭は特に変わったところもなし、フツウの文化祭だ。現状の形の良否は別としても、大切なことは「今では文化祭本来の目的が失われつつあることはあくまでも貴校の文化祭予算と生徒一般の意欲の有無だ。

じめられた時代には、高等学校は文化の先端を行くものの一つだった。だからそこで行われる文化の祭典は、その名のとおり社会文化の向上にも役立っていた。ところが、現在では各家庭の方が便利になり電化され、本来の文化祭の目的は失われつつある。だから今、文化祭の意義を再検討すべき時がきているのではないか。貴校がそうして他校の様子を調べられることも結構だが、考えねばならないことはあくまでも貴校の文化祭予算と生徒一般の意欲の有無だ。

イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町 電②0998番

書籍　ニュー高知西端　明文堂　新京橋
雑誌　②6395　③6956

ヒフ病薬　新薬は
はりまや薬局
はりまや橋四国銀行本店前　TEL②2665

本店　はりまや橋北詰角
支店　上町五丁目商店街
片桐書店
電話②一〇九三五番

日常学習から大学受験まで
完全研究シリーズ
三年間むだなく役に立つ！
完全研究シリーズで
実力と自信をつけよう！
◉大学入試の総仕上げにぴったりの新しい問題集！【別冊解答付】
大学受験 精選問題集 A5判・全14冊 定価各一八〇円
東大・京大・阪大・東京教育大・一橋大・立大
の着眼と教授が執筆した完璧の内容。高校三年間の学習内容をもれなく収録し、合格の栄冠を約束する絶好の学習受験参考書！ A5判上製本
生物の完全研究 五五〇円
化学の完全研究 五三〇円
地学の完全研究 四八〇円
地理の完全研究 五〇〇円
日本史の完全研究 五五〇円
世界史の完全研究 五五〇円
倫理社会の完全研究 五〇〇円
政治経済の完全研究 四八〇円
学生諸君の出版社
清水書院
東京都新宿区東五軒町5

サンゴはぜいたく品ではありません
りっぱな工芸品です
土佐の名産サンゴにカツオと
全国に知られています
土佐名産サンゴと
装身具は
池田珊瑚店
高知市帯屋町一丁目
TEL②0358

寿し柳
本店　高知市八百屋町8　TEL⑤0101
別館　高知市掛川町25　TEL②8448
支店　高知市帯屋町90（公設市場内）　TEL②5373
支店　高知新聞放送会館地下　TEL⑤7004
支店　高知市帯屋町104 文教会館内　TEL⑤0411
支店　高知市中島町 税務署構内食堂　TEL②1123
支店　スーパー四階食堂　TEL⑤2175

＊教養と知性をみがき正しいマナーを身につけよう
行動派の君にヤングマンコーナー
VAN JIRO Jazz 〈1階〉
＊お洒落でちょっぴりお茶目なあなたに
エフエル〈アイビーシスターズ〉コーナー 〈2階〉
お買物相談所 〈1階外商課受付〉
★ご贈答（お歳暮・クリスマス・お年賀）のご用命承ります。
年内無休
■新年は2日から営業いたします。
あなたのデパート 土電 高知・南はりまや町5 TEL②0115